

「伝統芸能 × 未来」プロジェクト (JPAF) リリースイベント

対談「歌舞伎の国際化をめぐるって」

中村京蔵 × 児玉竜一

(歌舞伎俳優)

(早稲田大学教授、早稲田大学演劇博物館副館長)

は じめて歌舞伎の海外公演がおこなわれたのは、2代目市川左團次一座による1928年のソ連公演でした。現地において歌舞伎は未知の芸能でしたが、大変な好評を博し、以後各国で公演を重ねてゆきます。その過程では「歌舞伎は旅する大使館」というキャッチフレーズも生まれました。

娯楽の多様化が進む今日、日本人にとってもはや日本の伝統芸能を観るのは当たり前のことではなくなりました。一方で交通網やインターネットの発達を背景に国境のボーダーレス化は進み、日本の文化は様々な形で海外に発進されるようになりました。初の海外公演から約90年を経た今、歌舞伎は世界でどのように受け止められているのでしょうか。

数多くの海外公演に出演されてきた中村京蔵氏と、伝統芸能の上演事情に詳しい児玉竜一氏に、歌舞伎の海外公演の様子を中心に、その国際化の諸相をご対談いただきます。



中村京蔵

歌舞伎俳優。伝統歌舞伎保存会会員。法政大学卒。国立劇場歌舞伎俳優養成所の研修修了後、四代目中村雀右衛門門下となる。女形として歌舞伎公演で活躍する一方、海外での公演、歌舞伎レクチャー経験

は19ヶ国47都市にのぼる。日本俳優協会賞、文化庁芸術祭舞踊部門新人賞を受賞。国立劇場歌舞伎俳優養成所、日本大学芸術学部などで講師を歴任。「勘定奉行」のCMでもおなじみ。



児玉竜一

早稲田大学文学部教授。早稲田大学助手、東京国立文化財研究所芸能部研究員、日本女子大学准教授などを経て、2010年より現職。早稲田大学演劇博物館副館長として、展示等にも携わる。専門は、

歌舞伎研究と評論。歌舞伎学会会長。2005年より「朝日新聞」で歌舞伎評担当。著書に『能楽・文楽・歌舞伎』（教育芸術社）、共編著に『映画のなかの古典芸能』（森話社）など。

このイベントはZoomを利用して映像を配信する形で行います。

視聴には、Zoomを利用できるパソコン、スマートフォンをご準備いただく必要があります。

双方向のやり取りはありませんので、カメラ、マイクは必要ありません。

対談の最後には、チャット（Zoom機能）による質問を受け付けます。

2020年7月23日（木・祝日）15:00～16:30

Zoomによる生配信

対象：学生、一般（定員350名） 無料

申込期間：2020年7月15日（水）～23日（木）12:00

定員を超過した時点で受付終了とさせていただきます。

申込方法：以下のURLまたはQRコードよりお申し込みください。

<https://www.ocans.jp/ocha?fid=oQ4Ukq67>



主催：お茶の水女子大学

連絡先：グローバルリーダーシップ研究所 比較日本学教育研究部門

dentogeino@cc.ocha.ac.jp